

読谷山花織の帯と手巾を身に付けたモデル(中央、右から2人目)と蔵當慎也代表理事(右端)、又吉弘子理事長(左から2人目)ら=5日、県庁



読谷山花織使い組踊

現代版アレンジ、10日上演

読谷村ゆかりの偉人を取り上げた現代版組踊「読谷山花織の宴」が10日午後2時と午後6時、那覇市民会館で上演される。主催するタオファクトリー(つるま市)など5日、県庁で読谷村の魅力を見を聞きPRした。読谷村の魅力を伝えるようと、国指定伝統工芸品「読谷山花織」の帯と手巾を劇で使う。会場でも販売する。

読谷高校ダンス部を含む県内各地から集まった中学1年生から25歳までの50人が出演する。5日の会見で、演出するタオファクトリーの蔵當慎也代表理事は「舞台を通して読谷を盛り上げた」と意気込んだ。

14世紀に察度王の弟として中国と交易した泰期も、劇に登場する。読谷山花織事業協同組合の又吉弘子理事長は「歴史のロマンを感じながら見てほしい」と話した。入場料2千円。問い合わせはタオファクトリー ☎098(9883)0144。